

令和8年度 第2回養父市立図書館協議会 議事録

- 1 開催日時 令和8年9月11日（水） 10時00分～12時
- 2 会場 養父公民館 B研修室
- 3 出席者 (会長)武田俊彦、(副会長)松岡弓果、池田ビルギット、大野はな恵、
木村麻紀、土居一雄、松元伸介、守本加代子、安本靖史
事務局6名 … (本館)藤本、白岩、西谷、(養父分館)中嶋
(大屋分館)千葉、(関宮分館)吉田
- 4 内 容 *司会進行 … 事務局(白岩)
 - (1) 開会
 - (2) あいさつ
藤本館長 … 今回提示した「基本的運営方針」の素案について、構成や内容についての説明を交えながら挨拶。
 - (3) 協議事項
 - ①全体的な構成について
＜出された主な意見＞
 - ・ 養父市立図書館は「やぶ市民交流広場」という複合施設内にあり、施設全体として様々な面で交流の拠点として機能する必要があるため、図書館単体として方針を立てるのは難しかったと思うが、全体的によくまとまっており分かりやすいと思う。
 - ・ 「4 基本的運営方針の実現に向けて」の項目について、目次と小見出しで表記が異なっている箇所がある。どちらかに統一し整合性を図るとよい。
 - ・ 内容を見ると、図書館側からの見解が多いように感じる。もっと市民が参画し、市民が一緒になって図書館を運営していこうという内容も必要だと思う。(会長)掲げている「基本理念」や4つの各方針について意見を伺いたい。

【＜方針1：読む＞市民の誰もが読書に親しめる図書館 について】

＜出された主な意見＞

- ・ 「環境の整備」という言葉がよく出てくるが、図書館内の環境だけでなく、自宅から図書館へのアクセス方法など図書館外の環境についてまで範囲が及ぶように感じられるので、言葉のもつ範囲を定めるためにも文言の見直しが必要ではないか。
- ・ (交通手段がないなどの理由で) 図書館を気軽に利用できないという話があったが、電子図書を導入することで解決するように思う。電子図書の導入もここでいう「環境の整備」につながるのではないだろうか。

【＜方針2：学ぶ＞市民にとって必要な生涯学習情報が提供できる図書館について】

＜出された主な意見＞

- ・ “持続可能”という言葉を取り入れるのはどうか。「誰にもどの世代にも」という文言にもつながり、見出しにある「生涯学習」という言葉にも関連付けられる。

【＜方針３：集う＞市民が誰でも気軽に足を運べる図書館 について】

＜出された主な意見＞

- ・ 「活用できるよう」という文言が気になる。図書館は“利用する”ものだというイメージが強く、利用者の主体性が感じられない。市民の社会的参加という考え方が進んでいる昨今、図書館側が利用者に対してサービスを提供するだけではなく、利用者側も図書館づくりに“参加する”取り組みが必要だと考える。ここで用いられている「活用」を「参加」や「参画」といった言葉に言い換えることで、基本方針を市民に向けてより丁寧を示すことができると思う。

【＜方針４：つながる＞市民が交流するハブとして機能する図書館 について】

＜出された主な意見＞

- ・ 用いられている「ハブ」という言葉よりも「拠点」の方が、馴染みがあり意味が通りやすいのではないか。
- ・ 基本方針全体を見ると一般的で、養父市の図書館ならではの特色をあまり感じられない。
- ・ 図書館には郷土資料が所蔵されていることから、市民の郷土愛の育成に関する取組を方針に含めてほしい。地域の文化や伝統の保存や伝承に触れることで基本方針に特色が生まれると思う。方針よりも基本理念の方に含めてもいいかもしれない。

②向こう５年間を見据えた取組について

（会長）各方針に関連する具体的な取組案の中で、割愛した方がよい、あるいは追加したい取組について意見をいただきたい。なお、追加したい取組については少し背伸びして手を伸ばせば届くような実現可能性のあるものをお願いしたい。

【＜方針１：読む＞市民の誰もが読書に親しめる図書館 について】

＜出された主な意見＞

- ・ 電子図書の導入についての見通しや今の進捗はどういう状況か？

（事務局）養父市立図書館の収蔵可能冊数は10万冊で、現在9.4万冊を超えており上限に達そうとしている。これまで新しい図書の収書に力点を置いてきたが、今後は除籍や廃棄を進めていくことも必要となってくる。電子図書の導入はまだ検討段階であるが、他地域の実施事例を参考にしながら、今後は紙媒体と電子媒体のハイブリッド型で運営し、蔵書全体を調整してい

きたいと考えている。

- ・ 電子図書は自宅からアクセスできるだけでなく、紙をめくる必要がなく文字の大きさも調節できるため、高齢者や障がい者にとってメリットが大きい。過疎化が進む地域にこそ特に必要なのではないか。
- ・ コミュニティナースに頼まれて、デイサービス施設などに赴いて「出張読み聞かせ」を行っている。取組の中に、図書館内の読み聞かせだけでなくアウトリーチ事業として含められないか。

（事務局）このことについては図書館事業ではないので、内容に記載するかどうかは検討したい。

- ・ 3つ目の「聞かせる図書」について「子どもたちと大人がともに読み聞かせを楽しみー」とあるが、“ともに”だと大人を対象とした読み聞かせは実施されていないと受け取られる恐れがある。子どもと大人、それぞれを対象とした読み聞かせを用意しているのであれば、文言を変更してもよいと思う。
- ・ 英語絵本の読み聞かせを実施していることについても言及した方がよい。
- ・ 「資料の充実」に郷土資料について言及する文言を追加してほしい。

【＜方針2：学ぶ＞市民にとって必要な生涯学習情報が提供できる図書館について】

＜出された主な意見＞

- ・ 学校連携について内容に含めてほしい。教育活動の支援や青少年支援など学校と連携することで相互に良い影響を及ぼすことができると考える。「方針4」で読み聞かせボランティア団体等との連携について触れているのと同じように、明記するのはどうだろうか。
- ・ 「子どもたちの読書活動への支援」という視点から学校と連携できれば、方針の実現に向けてより具体性が高まるのではないか。例えば、図書委員を務める児童たちが選んだ「おすすめ図書」を市立図書館内に展示することで学校と図書館を結び付けられるだけではなく、保護者や友達が図書館を訪れるきっかけにもなると思う。
- ・ 来館していない人に向けたアプローチについて方針を立てないのか。
- ・ 小見出しに「高齢者・障がい者等」とあるので、整合性を図るために内容も「高齢者・障がい者向けサービス」とする方がよい。

【＜方針3：集う＞市民が誰でも気軽に足を運べる図書館 について】

＜出された主な意見＞

- ・ イベントや事業を実施して来館者数の増加を促す取組も大事だが、目的なくふらりと図書館を訪れたい利用者もいると思う。「サードプレイス」の側面を持つ図書館で誰にでも居心地の良い場所を提供できるように、多様な利用方法があることを伝える取組を取り入れるのはどうか。

【＜方針4：つながる＞市民が交流するハブとして機能する図書館 について】

＜出された主な意見＞

- ・ やはり利用者がサービスを享受するだけの存在となっているように感じる。
「方針4」にこそ「参加」もしくは「参画」という単語を取り入れて、地域一体となって図書館を作り上げる意識付けができればと思う。
- ・ すべての項目で市民の主体性を意味する「参加する」という文言を含めるのではなく、必要な項目に限定的に用いればよいと思う。
- ・ 「つながる」というキーワードとやぶ市民交流広場から続く小路が立誠舎につながっていることを関連付けて、地域の偉人や先人についての学びを提供できるような取組を加えてみてはどうか。
- ・ 連携について、「福祉や医療、子育て等」とあるが、連携の対象が限定されているように感じる。市内には多種多様な団体があり、それらを含められる表現にしてはどうか。

＜基本理念について＞

- ・ 「サードプレイス」としての側面について述べたが、基本理念の中に、キーワードとして「居場所」を含めてみてはどうか。

③方針の策定に向けたアンケートの実施について

（会長）事務局から3つの案が提案されているが、他にどのようなアンケートがあればよいか意見をいただきたい。

【案1 来館者（市民向け）】

【案2 関係の小学校・中学校・高等学校の児童生徒向け】

【案3 保育所・こども園に通う園児の保護者向け】

＜出された主な意見＞

- ・ 対象について、来館者だけでなく非来館者、利用しない人に向けた調査が必要だと考える。どのようなツールを用いて非来館者から回答を入手するかは検討いただくとして、「なぜ行かないのか」を図書館側が知ることは今後の運営において参考になると思う。
- ・ アンケートの冒頭に、予め項目数を示しておくのはどうか。「〇項目だけなら回答してみよう」と気軽に回答してくれるかもしれない。

※その他、各案の質問項目について質問や意見が出された。

（4）その他、事務連絡

（5）閉会あいさつ

次回の開催時期についての確認等